

社会福祉法人けやきの杜

令和4年度事業報告



- P02～P03 法人本部
- P03～P04 希望園
- P04 ワークセンター・さくら
- P04～P05 食彩工房プラスワン
- P05～P06 地域共同生活支援センター・レハイム/キッピス
- P06～P07 ライフネット
- P07 短期入所事業カペラ
- P07 小規模多機能むさし
- P08 放課後等デイサービス ルーチェ
- P08 放課後等デイサービス 第2ルーチェ
- P09～P14 国分寺市障害者就労支援センター
- P14～P16 地域活動支援センター虹

1 **■法人本部**

2 令和4年度も中長期経営計画の5つの重点目標を中心に進めるとともに、法人の喫緊の課題である
3 収支均衡化を目指して取り組みました。

4 令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響は局所的にとどまるも、全般的な物価上昇の波が福
5 祉サービスにも波及する中、国分寺市福祉事業所物価高騰対応支援寄付金等の支援を受けなが
6 ら、6年ぶりに採算ラインを上回りました。中長期経営計画にも位置付けられている経営基盤の強化
7 に向けた取組が一定の成果をあげ、既存の事業に注力した結果が現れました。

8 今後も採算ラインを維持しつつ、業務の質を高めていく取組を進めてまいります。

9
10 **◇支援の向上**

11 ワークセンター・さくらを中心に社会福祉法人横浜やまびこの里の志賀利一氏のスーパーバイズ
12 を受け、自閉的傾向のあるご利用者の支援手法について実践的な研修を行いました。ご利用者の
13 高齢化・重度化に向けて独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園への見学及び研
14 修については実施できませんでしたが、障害福祉サービス事業所と介護保険事業所間の職員の連
15 携を図り、令和5年度に向けて取り組んでまいります。

16 また、ご利用者の情報については、担当者を決めて一元的にクラウドで管理・共有するとともに、
17 一部の事業所では起案の電子申請化を進めました。

18 DCT 委員会(ご利用者に対する性の基礎知識や命の大切さに関する講座の企画及び実施)の取
19 組として、委員の職員を性に関する外部研修に派遣し、全体職員会議で発表する機会を設けると
20 もに、外部機関の講座に4名のご利用者が参加しています。

21 令和4年度中にコミュニケーションスキルとリテラシーの向上への取組はできなかったもので、令和5
22 年度の課題として引き続き取り組んでまいります。

23
24 **◇組織の強化**

25 情報共有・伝達システムとして外部サービス(さくら連絡網)を導入し、一部事業所のご家族及び全
26 パート職員に対して運用を開始しました。引き続き未導入の事業所のご家族に対しても運用を図っ
27 てまいります。

28
29 **◇人材確保・育成**

30 令和4年度常勤職員(支援職)の資格取得率は69.5%と目標の70%をほぼ達成しました。

31
32 **◇経営基盤の強化**

33 令和4年度中に新たに通所事業所(希望園、ワークセンター・さくら、食彩工房プラスワン)の利用を
34 開始した方は15人いました。就労継続支援B型事業所は定員に余裕があるので、引き続きご利用
35 者の募集活動を継続します。

36 小規模多機能むさしも令和4年4月には10名だったご登録者が、令和5年3月には15名に増え
37 ました。引き続きご登録者募集に注力してまいります。

38 ライフネットのヘルパーも増やしておりますが、令和4年度の移動支援の稼働時間は7,200時間と
39 目標の8,000時間は達成できませんでした。

40
41 **(法人全体に関わる項目)**

理事会・評議員会	理事会 第1回6月4日(土)・第2回8月11日(木)・第3回11月19日(土)・ 第4回3月25日(土) 評議員会 第1回6月22日(水)・第2回8月30日(火)・第3回12月8日(木)
----------	---

行事	けやきフェスタ・活動報告会・通所ご利用者ツアー 中止
安全管理	事故やリスクに関する情報を安全管理総務委員会で収集して再発防止に努めました。また、収集した事象に関する情報の分析結果を4月の全体職員会議で周知し、再発防止のために研修しました。
防災対策	災害時に備えて非常食・飲料水等を3日分常備し、保存期限に応じて入れ替えをしました。 自衛消防隊を編成して各事業所で避難訓練を実施しました。 地域防災協定に基づく「ふれあい合同防災訓練」は中止となりました。
個人情報保護	個人情報の漏えい、滅失、き損等の防止のため、安全性の高いシステム(クラウド)の導入や USB メモリの使用禁止等の必要な安全管理措置を講じました。
権利擁護	虐待防止委員会を開催し、身体拘束等の適正化に向けて理解の促進に努めました。
苦情解決	令和4年度の苦情申し立てはありませんでした。
ボランティアの受け入れ 地域交流	新型コロナウイルス感染症の拡大による衛生対策のため、受け入れは必要最低限にとどめました。
法人広報・情報公開	法人ウェブサイト及び広報誌で法人事業の周知及び情報公開を図りました。また、法人広報誌を年3回発行しました。

1

2

■希望園

(生活介護事業)

◇高齢化・重度化に即したプログラムの調査・見学・研修の実施

高齢化・重度化に即したプログラムの研修に2名の職員を派遣し、学習した内容を全体職員会議で共有しました。調査・見学については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり実施できませんでした。

9

◇作業を中心に取り組みたいご利用者のニーズへの対応

販売作業を就労継続支援 B 型から生活介護に移し、作業プログラムとして実施しました。それに伴い仕入れや販売等の作業が増え、多くのご利用者が作業に参加できました。受注作業については、生活介護のご利用者にとっては複雑な作業も多く、思うように受注が増えませんでした。作業環境を整備することで、ご利用者自身で準備や片付けができるよう取り組みました。

15

◇生活に必要なスキルを経験する機会の提供

新型コロナウイルス感染症の影響により、新たな生活プログラムの実施は自粛しました。調理プログラムは継続的に実施し、準備や片付けを含めたご利用者の主体的な活動への参加に取り組みました。

19

(就労継続支援 B 型事業)

◇工賃向上に向けた取組

ポスティング作業は単発的な作業の受注を増やし、収入を昨年度に比べ 32 万7千円増やしました。主な受注先は、国分寺市障害者お仕事ネットワークや国分寺青年会議所等の地域団体の関係者で、昨年度に比べ4件増えました。清掃作業は安定して作業を受注できましたが、国分寺市役所清掃に従事するご利用者の数が減ったため職員の事務時間の確保が難しく、清掃マニュアルを統一できなかったため、今後の課題として取り組んでまいります。

27

◇就労に向けた支援

令和4年度も就労に向けたプログラムを行い、国分寺市役所を中心に実習を年5回実施しました。令和4年度中の就職者はおりませんでした。令和5年度も4名のご利用者が活動を希望しており、継続して就労支援プログラムを取り組んでまいります。

令和4年度 作業収入 8,934,502 円 月額平均工賃 24,390 円

■ワークセンター・さくら

◇個別プログラムの充実と作業及び生活プログラムの見直し

令和4年度は外部からスーパーバイザーとして社会福祉法人横浜やまびこの里の志賀利一氏に講師を依頼し、職員と協議して対象ご利用者を一人に絞り、ワークフローを活用した実践と振り返り、次の取組に向けてのアドバイスを3回に分けて研修しました。予定では年4回実施し、最後に先進的な実践に取り組んでいる事業所の見学を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、見学は令和5年度に持ち越しとなりました。

今回の実践を通じ、他のご利用者にもワークフローを活用して個別プログラムの見直しを行いました。個々の課題を作業に置き換えることで、作業プログラムでもワークフローを活用することも学びました。残念ながら、令和4年度中には一部のご利用者しか見直しができず、より多くのご利用者への活用に向けて、令和5年度に継続して取り組んでまいります。

生活プログラムは、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、調理や造形の参加者や回数を増やしました。また、体力の維持を図ってダンス等の運動プログラムも試みましたが、定期的な実施ができませんでした。年度末には、講師を依頼して和太鼓の体験を実施し、令和5年度に向けて継続して取り組める見通しが立ちました。今後もプログラムの検証を重ねて充実した活動につなげ、個々のニーズに沿った支援に取り組んでまいります。

◇プログラム以外の時間の過ごし方の工夫

ご利用者同士の関係性に配慮して部屋を分けるとともに、パーティーションで仕切って個々の居場所をわかりやすく提示し、それぞれが安心して過ごせる居場所の確保を目指しました。また、安全を意識した職員のポジションを工夫しました。より充実して過ごせるように、物品の購入も検討してまいります。

■食彩工房プラスワン

◇売上向上に向けた取組

令和4年度は食材事業全体の収入は増加しましたが、食材の仕入れ価格や水光熱費等の上昇のあおりを受けて支出も増え、工賃への反映は微増にとどまりました。また、作業量を充実させて一人ひとりが役割を持って作業に取り組める環境を作るとともに、デジタル機器を用いて作業の効率化を図りました。

製菓事業は、パンの製造・販売に向けて試作を重ねて販売できる状況に至りました。菓子製造も新たなレシピでの試作や作業工程を見直してご利用者が携わりやすいように工夫しました。今後はパンの製造・販売の開始や季節に合わせた菓子の製造を通じて販売経路を開拓し、収入増に努めてまいります。

1 ◇室内作業の定着

2 体力面や障害特性等で製造作業に終日携わることが難しいご利用者は、食材製造に係る事務作
3 業に取り組みました。就労に向けて経験の幅を広げたいご利用者にも、集中力の維持・向上や手先
4 の訓練を兼ねて提案し、事務作業を希望されるご利用者が増えました。

6 ◇就労希望者に対する支援

7 就労継続支援 B 型からステップアップを希望されるご利用者に対し、一般就労に向けてパソコン
8 業務を担う等、様々な経験の場を提供しました。また、関係機関と連携し、企業見学・合同面接会・実
9 習等を行いました。

11 ◇その他

12 ご利用者が主体的に実施するミーティングの時間は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり実施
13 できませんでした。

15 令和4年度 作業収入 37,318,443 円 月額平均工賃 20,191 円

18 ■地域共同生活支援センター・レハイム

19 ■地域共同生活支援センター・キッピス

20 ◇ユニット満床に向けた取組

21 サテライト型グループホームのご利用者が、令和4年6月に一人暮らしへ移行する予定でしたが、
22 ご本人と話し合った結果、マイホーム・はるなに入居しました。また、令和4年度より新規のご利用者
23 がマイホーム・あすか及びマイホーム・ぶんじにそれぞれ1名ずつ入居し、ユニットは全て満床となり
24 ました。

26 ◇事故防止対策の実施

27 令和3年度に起きたインシデントの検証から、ユニットにおける事故防止対策を強化しました。ご利用
28 者の転倒による怪我やドアの隙間に手を挟んでしまう事故等を防止するため、各ユニットの家具の
29 角にコーナーガードや指挟みを防止する隙間カバー等を設置し、事故の防止と万が一事故が起
30 こった際にも最小限の怪我で済むように環境を整備しました。

31 緊急時の対策として緊急時対応ファイルを見直し、各ユニットに設置しました。また、各ユニットに
32 対する抜き打ち訓練を実施し、実際の緊急時に対応できるかを検証しました。

34 ◇グループホーム拠点事務所を活用した情報共有と業務の効率化

35 引き続きグループホームの書類や物品の集約と整理をして拠点事務所で事務作業を行うことで、
36 各ユニットの状況や業務を全体で把握できフォローしやすくなりました。また、ご利用者のご家族や
37 パート職員からの連絡を拠点事務所に統一することで業務を効率化し、ユニット長が本来の支援業
38 務に集中できるように環境を整備しました。

40 ◇支援力の向上

41 毎月の会議でケース検討及び個別支援計画案の確認及び修正を行うことで支援の方向性を統一
42 するとともに、情報を共有してユニット長のケースの抱え込みも防ぎました。

43 パート職員に対して研修を実施してグループホームにおける基本的な支援の在り方や緊急時の
44 対応について講義し、支援力の底上げを図りました。

◇人材の確保

近隣へのチラシのポスティングやパート職員を対象とした紹介キャンペーンの実施、求人サイトへの掲載等人材確保に取り組みましたが、十分な成果は得られず、令和5年度も課題として継続してまいります。

延べ利用日数

レハイム 13,298 日(昨年度:11,493 日)

キッピス 7,051 日(昨年度:8,390 日)

グループホーム全体 20,349 日(昨年度:19,883 日、昨年度比率 102%)

■ライフネット

◇新規ヘルパーの採用

令和4年度は新規ヘルパー20名の登録を目標としていましたが、10名の登録にとどまり、うち有資格者(知的ガイドヘルパー・初任者研修)は5名でした。半数以上が国分寺市移動支援連絡会の研修を通じて登録したヘルパーとグループホームパート職員で、外部からの問い合わせはシニア層のヘルパー登録が多く、これまでライフネットで活躍していた学生ヘルパーが減っています。学生のサークル活動等が自粛され、つながりが希薄になったことが影響しました。

令和5年度はこれまで以上に需要が増えることが見込まれるため、新規ヘルパーの採用を促進するとともに、支援の質の向上に取り組んでまいります。

◇ヘルパー研修

国分寺市移動支援連絡会の研修に複数名のヘルパーを派遣し、支援の質の向上を図りました。また、グループホームのパート職員と合同でヘルパー研修を1回開催しました。研修を実施するだけでなく、サービス前にはヘルパーに対して支援内容の確認や引継ぎを丁寧に行い、ヘルパーの意識や支援の質の向上を図りました。

◇日中一時支援事業

ご利用者がグループホームへ入居したり、就学して放課後等デイサービスを利用したりする等、他のサービスへ移行したため利用が減りました。

稼働実績

(1)自立支援給付(身体介護、同行援護、家事・通院、重度訪問介護、行動援護)

令和4年度目標稼働時間 移動支援:8,000 時間 介護給付:1,400 時間 介護保険:100 時間

令和4年度稼働時間実績 移動支援:7,206.5 時間 介護給付:1,415.5 時間 介護保険:67 時間

	実績(時間)	昨年度(時間)	昨年度比率
身体介護	102	301	33.9%
同行援護	118	608.5	19.4%
家事・通院	249.5	727.5	34.3%
重度訪問	0	489	-
行動援護	946	1,229.5	76.9%
移動支援	7206.5	7742	93.1%
合計	8622.0	11097.5	77.7%

1 (2)移動支援

2 令和4年度稼働時間実績 7,206.5 時間(昨年度:7,742 時間 昨年度比率:93.1%)

4 (3)介護保険

5 令和4年度稼働時間実績 67.0 時間(昨年度:438 時間 昨年度比率:15.4%)

6 ご利用者全員、6月末までに他事業所へ移行されました。

8 (4)日中一時支援

9 令和4年度稼働時間実績 659.0 時間(昨年度:1,544 時間 昨年度比率:42.7%)

12 ■短期入所事業カペラ

13 ◇ご利用者のニーズに合わせたサービス提供と職員の支援力、質の向上、サービスの標準化

14 個別の面談は実施できませんでしたが、ご利用者の個人票を定期的に見直し、支援の向上につ

15 なげました。
16 グループホーム拠点事務所と同一建物という立地をいかし職員が顔合わせやすくなったことで、

17 情報共有を円滑に図ることができました。

18 令和4年度の新規ご利用者は1名でした。

20 令和4年度稼働目標:400 日

21 令和4年度稼働実績:246 日

24 ■小規模多機能むさし

25 ◇小規模多機能型サービスの特性をいかした支援と加算(訪問体制強化加算)に適合した体制作り

26 通所サービスを中心としたご利用方法からご自宅で過ごす時間が中心になるように訪問サービス
27 を軸に変更し、日常生活に沿った支援をしました。令和4年度は、登録ご利用者数の減少の影響で
28 月の訪問回数が減り、訪問体制強化加算の要件を満たすことはできませんでした。

30 ◇業務全般の見直しと効率化、ケアの質の向上

31 業務分担を見直すとともに、CO・OPを導入し効率化を図りました。朝の申し送りを中心に情報共有
32 を図るとともに、一人ひとりに合わせて支援しました。

34 ◇地域貢献や交流の実践と関係機関との連携強化

35 地域の方に向けた施設見学会を開催するとともに、居宅介護事業所の介護支援専門員向けの施
36 設見学会を3回開催しました。その結果、地域包括支援センターひよしからの紹介を含めて令和4年
37 度は8名の新規ご利用者が登録しました。

39 延べ利用人数 135 名

■放課後等デイサービス ルーチェ

◇学習における教材、環境、支援の個別化

学習の時間は、公文式学習だけではなく、個別教材も用いて個人の意向に合わせた教材を準備して提供しました。個別で取り組むことが難しいご利用者には、職員と一緒に学習したり、個別スペースを活用したりする等、学習環境を整えて集中して意欲的に取り組めるように工夫しました。また、思春期の子どもたちに向けた講座をDCT委員会と連携して実施しました。

◇ソーシャルスキルの向上

買い物体験やお金の計算等お金の使い方を覚える練習をするとともに、身体を動かしたいご利用者の意向を取り入れ、公園に行き遊ぶ機会を設けました。SSTで人との距離感を学習する等の経験を通じて、ソーシャルスキルの向上に努めました。また、大勢で過ごす中でご利用者同士のコミュニケーションスキルの向上を意識して活動しました。

◇季節ごとのイベント実施

新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、外出や調理のプログラムを再開しました。また、毎月季節に応じた制作の時間を設けるとともに、ハロウィン・クリスマス・お正月等の時期には小規模なイベントも実施しました。イベントを通じてご利用者同士がより親しくなる姿も見られました。

延べ利用人数

令和4年4月～令和5年3月 2,139人（定員充足率 85.3%）

■放課後等デイサービス 第2ルーチェ

◇ご利用者相互の関係性やつながりの支援

曜日によって異なるご利用者それぞれの特性を大切に、年齢差や男女差にも考慮した遊びを提供しました。レゴブロックやプラレール等で遊ぶ低学年男子には、お互いに協力して遊びを創造することを支援しました。また、鬼ごっこやボール遊び等では、年齢・男女を超えて一緒に楽しめる場を設定し、どうしたら相手が楽しめるか、また、何をしたら相手が嫌がるか等を一緒に考え、楽しく遊ぶ方法を探りました。

◇意欲的に取り組める個々に応じた学習

公文式学習を基本としつつもご利用者の希望になるべく応え、学校の宿題に取り組んだり、個別プリントを用意したりしました。個別対応が必要なご利用者には、対面学習や個別スペース等を活用して取り組みました。活動に参加するにつれ、個別スペースでないと集中できなかったご利用者が徐々に集団の活動にも参加し、今では学習室で皆と一緒に取り組むことができるようにもなりました。

また、学習と遊びの時間を切り替えられるように始まりの会を行い、一旦気持ちを落ち着けてから学習に取り組める工夫をしました。

◇学校公開への参加や通級指導の見学と意見交換

ご利用者が通うクラスの学校公開に参加しました。学校公開では、小・中・高等部での取組を詳しく知ることができました。

また、相談支援専門員に協力を仰ぎ、ご利用者の通級指導を見学して担当の先生と意見交換してご利用者の今後の学習の進め方を検討しました。

延べ利用人数

令和4年4月～令和5年3月 1,949人（定員充足率 80.7%）

■国分寺市障害者就労支援センター

国分寺市障害者就労支援センターは、国分寺市の委託を受け、国分寺市の全面的な支援の下、地域における障害者の一般就労の機会の拡大を図るとともに、障害者が安心して働き続けることができるような就労支援を展開しました。

令和4年度は、国分寺市役所内および国分寺市関連施設での職場実習、特例子会社や障害者雇用で実績のある企業の見学・実習の実施、必要に応じて職業センターの職業評価を受け、ご登録者の就労に向けた準備性(※)を整えました。

雇用啓発・職場開拓では、国分寺市内の企業の方、求職している方、就職を希望している方及びそのご家族や福祉施設の支援者に向けて、障害者雇用で実績のある企業にご協力いただき「障害者雇用セミナー」を開催しました。また、当センターの職員が国分寺市障害者施策推進協議会・障害者地域自立支援協議会・就労支援地域連絡会に委員として参加することで、職場開拓や障害者雇用の啓発等の具体的な取組を共有する重要な機会となりました。

求職活動の支援では、採用に向けての企業見学や実習を行っている企業もあるため、求人票を出している企業はもちろん、ご登録者や関連機関等と相談しながら継続しました。また、小平市障害者就労・生活支援センター「ほっと」等の近隣市の就労支援センターと協働し、ハローワーク立川とのマッチング会議を2回開催しました。ハローワークはもちろん、各自治体の就労支援センター等とも連携を密に取りながら相互に情報を共有し、ご登録者の要望に応えられるように努めました。

令和4年度は新規ご登録者が31名となり、ご登録者数の事業数値目標285名を上回る292名となりました。今後も働きたいという意欲、希望を持つ障害者が増えていくと予想されます。また、相談内容は生活面や健康面、高齢化等多岐にわたり、関係する機関も増え、多様化・複雑化しています。そのため、就労支援以上に生活支援や不安解消のニーズが増えている状況にあります。その影響から、就労面の支援が令和3年度と比較して1,538件減少し、生活面の支援が1,096件増加しています。合計が442件減少しているのは、新型コロナウイルス感染症対策の緩和に伴い、電話やメール等での相談件数が534件減少し、企業訪問の件数が令和3年度と比較して51件増加している他、関係機関等への訪問の件数が168件増加しているため、移動時間等が増加していることが考えられます。また、生活支援や不安解消の電話相談の場合、日に複数回、長時間となってしまうこともあります。同一の日にち、内容では複数回対応していても1件となることも影響しています。また、職員自身又は同居家族が新型コロナウイルス感染症に罹患する等、体調不良等により休みとなった期間・人数が多かったことで、物理的に支援できる日数や時間が令和3年度よりも減少している影響も考えられます。

今後も、ご登録者個別のニーズ(就職・職場定着・豊かな生活等)が実現・継続できるように「企業への障害者雇用の啓発」「職場開拓」「職場定着支援」等を強化し、障害施策や福祉施策、障害者雇用施策を理解・把握して日々修練してまいります。そして、国分寺市商工会等の関係団体と連携しながら地域におけるネットワークを形成し、就職を希望する障害者のニーズに応えられるように実績・事例を蓄積します。

(※)就労に向けた準備性とは、職業生活を開始するに当たって要件を準備すること。例えば、職業生活をはじめていくのに必要な身体条件、体力、仕事に対する意識、上司や同僚とコミュニケーションをしていくための能力、必要な技術、技能の獲得等

(出典:職業リハビリテーション用語集第2版)

1. 事業方針

国分寺市の全面的な支援の下、地域における障害者の一般就労の機会の拡大を図るとともに、障害者が安心して働き続けることができるように就労支援を展開しました。

支援の対象とする方は、国分寺市在住又は在勤の方、国分寺市内の福祉施設に在籍している方で、一般就労を希望する障害者やそのご家族等からの相談に基づき利用登録していただき、ご登録者のニーズに応じて就労支援と生活支援を一体的に支援しました。

1 2. 事業内容

		今年度実績	昨年度実績	増減	
就労面の支援	職業相談	内容	支援対象者及び家族又は事業主等からの就労全般に関する相談		
		件数	563	1,179	▲616
		増減の理由	令和3年度までは「職業相談」に挙げていたものの内容を精査し、相談内容に応じて「職場開拓」や「職業生活継続支援」等に振り分けたため、減少しています。		
	就労準備支援	内容	仕事に取り組む姿勢や社会性、職業能力を高める等の就労に向けた支援		
		件数	337	330	+7
		増減の理由	ご登録者の障害発症の状況・生育歴や学歴・職歴等を詳しく聞き取り、適性・力量を把握しながら実施しました。件数はほぼ例年通りでした。		
	職場開拓	内容	ハローワークと密に連携し、ご登録者の適性・ニーズに合った雇用先を開拓 職場実習を希望するご登録者が随時実習に入れるように協力企業を開拓		
		件数	381	110	+271
		増減の理由	令和3年度までは「職業相談」に挙げていたものの内容を精査し、相談内容に応じて「職場開拓」や「職業生活継続支援」等に振り分けているため、増加しています。		
	職場実習支援	内容	職場実習の際の出勤前準備、職務分析及び実習援助等について、事業主等へのご登録者に対する理解を促進し、職場環境を調整		
		件数	254	377	▲123
		増減の理由	職業準備性が整っておらず、長期的な支援・訓練が必要なケースが増えているため、就労移行支援事業所や職業訓練校等を紹介しています。また、転職を希望する方は職業準備性が整っているため、職場実習を行わずに就職を決めていることも影響しています。		
職場定着支援	内容	就職時の労働契約の締結にあたっての支援やご登録者が安心して働き続けられるように一定期間職場内で行う支援 職場でのトラブルを未然に予防し解決するために、定期的に又は随時、面談や職場訪問等の実施及びご利用者、ご家族及び事業主等に対して行う助言や調整			
	件数	3,040	4,193	▲1,153	
	増減の理由	「職場定着支援」の相談内容を精査し、相談内容に応じて「生活面の支援(日常生活支援や職業生活継続支援、社会生活支援)」に振り分けているため、減少しています。			

離職時の調整及び離職後の支援	内容	離職時の事業主との調整及び諸手続 離職後の生活設計等の相談に応じて、ご登録者の状況や希望に沿った支援		
	件数	173	97	+76
	増減の理由	令和4年度の離職者は19名と令和3年度の離職者17名から2名増え、件数も増加しています。また、離職手続きの支援(失業保険・健康保険等)の必要なご登録者が多かった影響もあります。		
	合計	4,748	6,286	▲1,538

1

		今年度実績	昨年度実績	増減	
生活面の支援	日常生活の支援	内容	職業生活の継続に必要な基礎能力の維持やご登録者の日常生活のリズムの調整、ご登録者の健康管理や金銭管理等に関する相談、助言		
		件数	146	94	+52
		増減の理由	「職場定着支援」の相談内容を精査し、相談内容に応じて「生活面の支援(日常生活支援や職業生活継続支援、社会生活支援)」に振り分けているため、微増しています。		
	職業生活継続支援	内容	就職前及び就職後のご登録者の不安や悩みを解消するためのカウンセリング、ご家族や職場の同僚との対人関係に関わる相談・調整 単身生活を希望する者に対して、住まいの確保、年金等の申請、福祉サービス等の利用援助等の具体的な支援		
		件数	1,441	440	+1,001
		増減の理由	「職場定着支援」の相談内容を精査し、相談内容に応じて「生活面の支援(日常生活支援や職業生活継続支援、社会生活支援)」に振り分けているため、増加しています。また、1日に複数回又は長時間の電話相談が増えています。		
	社会生活支援	内容	休日等の過ごし方、交流の場や金銭の使い方への助言や買い物・娯楽・趣味・地域交流等多様な活動への参加の支援 本人活動等の育成・支援		
		件数	169	117	+52
		増減の理由	「職場定着支援」の相談内容を精査し、相談内容に応じて「生活面の支援(日常生活支援や職業生活継続支援、社会生活支援)」に振り分けていることに加え、新型コロナウイルス感染症対策の緩和に伴い、地域交流等多様な活動が少しずつ再開してきたため、微増しています。		
	将来設計自己決定支援	内容	働きながら独立を目指したり結婚等の将来設計をしたりする際の、具体的な選択肢や選択した結果に対する責任の取り方等、ご登録者の自己選択や自己決定に対する支援		
件数		10	19	▲9	
	増減の理由	ご登録者及びそのご家族等の将来に対する不安や希望を把握し、自己選択を確認しながら実施しました。件数はほぼ例年通りでした。			
	合計	1,766	670	+1,096	

		今年度実績	昨年度実績	増減
地域開発の促進支援	内容	障害福祉サービス事業所等における就労希望者の積極的な掘り起こしと、施設等の経営者、職員、障害者本人に対する一般就労への働きかけや意識改革		
	件数	16	33	▲17
	増減の理由	件数は例年並みでした。		
	内容	障害者雇用に取り組む企業への継続的な助言や支援		
	件数	174	123	+51
	増減の理由	新型コロナウイルス感染症対策の緩和に伴い企業訪問の機会が増えたため、増加しました。		
	内容	障害者雇用に取り組もうとする職場の新規開拓		
	件数	27	19	+8
	増減の理由	件数は例年並みでした。		
	合計	217	175	

その他の支援

①インターネットを活用した就労に関する情報収集及び提供

就労支援センターに係るホームページや就労に関する情報を収集し、インターネットに接続できる環境により、国分寺市民や関連機関等に対して事業内容を周知しました。

②関連機関・協力機関とのネットワーク形成

コーディネーターをはじめ、ハローワーク等の行政機関の職員や障害福祉サービス事業所の職員、障害者団体の代表等の関係機関、協力機関と相互に情報交換して連携を図る等の地域における障害者就労支援のネットワークの整備に努めました。

③障害者就労の活性化

就業への準備性を高めるための実習・研修として1名の方が職場実習をしました。また、実習先の一つとして国分寺市役所内で実習を5回行うとともに、国分寺市内企業に対して障害者雇用を啓発し、雇用促進・職域の拡大を図りました。

④雇用の啓発

雇用啓発に向けたセミナー等を開催し、障害者雇用の理解促進や情報提供等の啓発的活動をしました。

3. 職員体制

(1)職員体制

就労支援コーディネーター 2名(常勤 2名)
 生活支援コーディネーター 2名(常勤 2名)
 地域開拓促進コーディネーター 2名(パート2名)

1 (2)研修

2 コーディネーターは、各種研修会や他の職種の方との交流、発達障害・高次脳機能障害の研修等
3 のあらゆる機会を利用して、支援技術の向上を図るための自己研鑽に努めました。

4 ①新人職員研修

5 新人職員研修を実施しました。

6 ②全体職員研修

7 新型コロナウイルス感染症予防の観点から、WEB 開催で年間3回以上実施しました。

8 ③外部研修

9 延べ18回、外部研修に職員を派遣しました。

10 11 4. 事業数値目標

		今年度実績	目標値	差異
職場定着支援	件数	3,040	3,600	▲560
	評価	目標を達成できませんでした。 令和4年度は「職場定着支援」の相談内容を精査し、相談内容に応じて「生活面の支援(日常生活支援や職業生活継続支援、社会生活支援)」に振り分けたため、目標設定をした令和3年度と比較して件数が減少しています。		
登録者数	人数	292	285	+7
	評価	目標を達成しました。 令和3年度のご登録者から10名増加しました。登録には結びつかなかった方の相談は増加傾向にあり、今後ご登録者は増えることが想定されます。 登録に結びつかなかった主な理由は、主治医や関係機関等の意見を確認し、就職活動を行うタイミングにあわせて登録を促すためです。		
就職者数	人数	21	23	▲2
	評価	目標を達成できませんでした。 職業準備性が整っておらず、長期的な支援・訓練が必要なケースが増えているため、就労移行支援事業や職業訓練校等を紹介することが増えています。		

12 13 5. 苦情対応に係る対応方針

14 国分寺市障害者就労支援センターは社会福祉法人けやきの杜が国分寺市より委託を受け運営し
15 ています。当法人では運営する施設及び事業所に関し、その運営を適正かつ健全に行うため、ご登
16 録者又はご家族等から苦情が出た場合、円滑・円満にその解決を図ることを目的に「苦情解決処理
17 規程」「苦情解決委員会設置運営規程」を設けております。就労支援センターにも苦情受付担当者を
18 置き、その仕組みのパンフレットを掲示し、利用されている方に分かりやすく、安心して相談できるよ
19 うに努めました。

6. その他

(1)就労支援センター運営委員会の開催

様々な障害者の就労支援の充実を図るために、支援事業者等による「就労支援センター運営委員会」を年4回開催し、国分寺市内での連携を図りました。また、計画的な運営を目指し、支援のあり方や職場開拓・就労支援ネットワーク構築等を計画的に実施しました。令和4年度の検討内容は「イベントに参加し、地域と交流してお互いに理解を深め合い、アンケートを実施する」でした。新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえてイベントが開催されなかったため、アンケート内容の検討のみとなり、令和5年度に継続してまいります。

(2)「就労談話室」および「就職活動セミナー」の開催

就職しているご登録者の職業生活充実を図ることを目的に、職場での不安や悩み事等を話し合っ
て解決方法を検討・相談し合える意見交換の場を提供する予定でしたが、新型コロナウイルス感染
症予防のため令和4年度は開催できませんでした。

■地域活動支援センター虹

地域活動支援センター虹では、他の障害福祉サービス事業所や企業等にうまく適応できない方、
定期的な通所や長時間の活動参加が難しい方を中心に、様々な作業機会の提供、創作・社会参加
等のプログラムを実施しました。ご登録者は既に定員を超えていますが、利用率には余裕があるた
め、可能な限り柔軟に受け入れました。さらに、地域活動支援センターの特性をいかし、訪問や電
話・メールによる相談、コミュニケーションにも継続して取り組みました。

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の流行のため、感染のリスクを抱えながらの事業運営を余
儀なくされました。職員のみならず、通所するご利用者にも検温・手指消毒、常時マスクの着用をお
願いしました。センター内では飛沫の飛散防止用アクリル板の設置や常時換気をするとともに、共有
箇所の定期的な消毒等、可能な限りの感染防止策を徹底して臨時に閉所することなく支援を継続し
ました。

相談支援事業所としては、障害者、障害児及び支援が必要な児童の保護者、障害者等の介護を
行うご家族等からの相談に応じ、日常生活に必要な便宜の供与や助言をするとともに、国分寺市や
指定障害福祉サービス事業者等との連絡調整等をしながら計画相談支援を実施しました。相談支援
専門員が担当するケース数は限界に近づいていますが、可能な限り速やかに新規の相談を受け付
け、ご利用者が必要とするサービスの利用につなげました。

1. 事業方針

国分寺市内の障害者及び障害児並びにその保護者からの相談に応じ、日常生活に必要な便宜
の供与を行うとともに、創作活動・生産活動等の機会の提供及び社会との交流の促進を図り、地域で
自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようにすることを目的としました。

2. 事業内容

(1)障害者相談支援業務

①福祉サービスの利用援助

様々な相談に応じ、福祉サービスの利用に係る必要な情報提供等を行いました。

②社会資源を活用するための支援

公的支援や有償サービス等種別を問わず、支援に必要な情報提供等をするとともに、各種支援
施策に関する助言等を行いました。

③社会生活力を高めるための支援

地域で暮らし続けられる力を身に付けることができるように様々な支援を行いました。

- 1 ④権利の擁護のために必要な援助
 2 相談者の権利が適切に守られるように必要な支援をしました。
 3 ⑤専門機関の紹介
 4 相談の内容に応じ、必要な専門機関の紹介等をしました。
 5 ⑥その他必要な支援
 6 ご利用者のニーズに応じて必要な支援をしました。

7
 8 **(2)地域活動支援センター業務**

- 9 ①医療・福祉及び地域の社会基盤との連携強化のための調整
 10 地域のネットワーク作りを促進し、各関係機関との連携に努めました。
 11 ②市民ボランティアの育成
 12 新型コロナウイルス感染症防止のため、ボランティアの受入れは制限しました。
 13 ③障害者に対する理解促進のための普及活動
 14 国分寺市内の小学生を対象に作文コンクールを開催し、障害者に対する普及啓発活動を実施し
 15 ました。
 16 ④創作活動及び生産活動等の場の提供
 17 ご利用者の希望に応じて、チラシの丁合や宅配寿司用品(箸や小皿、醤油パック)のセット組み等
 18 の受注作業、絵画や手芸等の創作活動を提供しました。

19
 20 **(3)生活支援業務**

21 生活の基本である居住・就労・食事等の日常生活に即した課題に対して個別かつ具体的に支援
 22 するとともに、生活機能や対人関係に関する支援をしました。また、通所や社会との接点のきっかけ
 23 となるような作業機会を提供するとともに、居場所・関係性作りの機会となるような活動の提供にも努
 24 めました。

25 電話・面接及び訪問等により金銭管理・対人関係・公的手続き等日常的な問題、夜間及び休日
 26 における各々の悩み・不安・孤独感の解消を図るための助言等を行い、必要に応じて関係機関へ連絡
 27 しました。

28 障害者及びそのご家族等の団体が行う障害者の社会復帰に関する活動に対する情報を提供する
 29 ともに、その活動を支援しました。

30
 31 **(4)地域交流**

32 新型コロナウイルス感染症拡大により大半の地域行事が中止となったため、令和4年度における地
 33 域との交流は活発とは言えませんでした。

34
 35 **(5)送迎業務**

36 地域活動支援センター虹の創作活動・生産活動のご利用者に対し、送迎サービスを提供しまし
 37 た。

38
 39 **(6)給食業務**

40 地域活動支援センター虹の創作活動・生産活動のご利用者に対し、下記の点に留意し、給食サー
 41 ビスを提供しました。

- 42 ①バランスの良い食事の提供
 43 栄養士による栄養価及びカロリーが計算されたバランスの良い食事を提供しました。
 44 ②楽しい食事の提供
 45 季節感のあるメニューを取り入れ、視覚的にも楽しめる食事を提供しました。

1 ③個別の状況に応じた食事の提供

2 ご利用者それぞれの状況に応じて、持病やアレルギー等への配慮、摂食状況に配慮した形態の
3 食事を提供しました。

4
5 **(7)消防訓練・非常災害対策**

6 ①避難訓練

7 自衛消防隊を編成し、月1回の避難訓練及び年1回の福祉センターとの合同訓練を行いました。
8 地域防災協定に基づく合同防災訓練は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

9 ②災害対策

10 災害時に備えて、非常食・飲料水等を3日分常備しました。

11
12 **(8)健康診断**

13 年4回嘱託医による問診(血圧測定、体重測定含む)を実施するとともに、希望者には年1回健康診
14 断を実施しました。

15
16 **3. 職員配置**

17 国分寺市地域活動支援センター I 型事業業務委託仕様書に基づき、以下のとおり職員を配置し
18 ました。

19 ①専門職員3名

20 (常勤であり社会福祉士又は相談支援専門員又は精神保健福祉士又は保健師の有資格者)

21 ②精神保健福祉士1名

22 ③生活支援員3名

23 ④事務員1名